

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	優良品種の選抜・創出及び育種技術の確立	花粉の少ないスギの育種	林業面からの対応として、花粉をつくらないスギ品種の創出を目指す。	富山県で見発見された花粉をつくらないスギと本県精英樹を交配し、雑種第一代を作出した。また、これらから人工交配に供する戻し交配用の花粉の大量採取を可能にした。県内において花粉をつくらないスギの探索を行った。	13	17	A	戻し交配用の花粉採取圃、クローン増殖による採穂圃の造成により、花粉をつくらないスギの効率的な作出が可能となった。	妥当な評価
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	優良品種の選抜・創出及び育種技術の確立	マツノザイセンチュウ抵抗性育種	マツノザイセンチュウ抵抗性候補育種材料を用い、抵抗性育種種苗を作出すると共に、それらを安定して供給できる技術を確立する。	抵抗性育種のため、新たなマツのつぎ木技術を確立し、高齢樹からの新たなさし木法を見出した。しかし、種子による抵抗性苗の生産手法の確立には至らなかった。	13	17	B	つぎ木クローン増殖技術は確立したが、種子による抵抗性苗の生産手法の確立には至らなかった。	マツノザイセンチュウ抵抗性育種に必要な周辺技術の確立として評価しているのは理解できる。
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	病害虫防除技術の確立	ヒノキ漏脂病の防除	ヒノキ漏脂病は生枝打ちによって被害の軽減が認められるが、枝打ち方法によっては被害の発生が認められるので、発病との関係を明らかにする。	枝打ち方法と被害発生との状況を調査し、発病との関係について検討した。また、被害の実態について調査した。	13	17	B	ヒノキ漏脂病の発生の予防には、早めの枝打ちが有効であることが判明した。	適切に評価されている
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	シイタケ菌床栽培技術	ロス率を軽減する栽培技術を開発し、シイタケ菌床栽培の安定化に資する。また、生産額に占めるコスト率の低減技術を開発し、市場性の高い子実体の生産に寄与する。	熟湯処理によるコスト率低減技術を開発するとともに、安定的にきのこを発生させる技術の検討を行った。また、優良な菌床栽培用品種等の選抜を行った。	13	17	B	安定生産技術およびコスト率低減技術の開発については、概ね目標を達成できた。優良品種選抜については、品種登録に至らなかった。	2次評価のとおり栽培技術については得るところがあった
5	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	野生資源生産技術の確立	有用野生資源の探索	本県内で食用、または民間療法薬として用いられる山菜・きのこの野生資源について、食品機能性を明らかにし、山村または中山間地域における産地化の可能性について検討する。	本県内で食用、または民間療法薬として用いられる山菜・きのこの等を試料とし、これらの抽出液を、疾病のモデル細胞である各種培養細胞への添加等により食品機能性を明らかにした。	13	17	A	本県特産林産物の食品機能性が解明され、新たな食品素材としての可能性が見出された。	大変興味深い研究成果が得られました。正確な情報を提供し、食品であるからこそ有用であることをアピールし、消費拡大に寄与されますよう期待します。
6	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県産材の材質特性把握	県産スギ平角材の強度性能	これまで構造材としては、柱材としての利用が多かったスギ材を、横架材としての活用を検討するため、県産スギ平角材の強度性能評価を行う。	県産スギ平角材の実大材曲げ強度試験を行い、この結果をもとに、構造材として使用の目安となる指標（スパン表）の作成を行った。	16	17	A	県産スギ平角材の強度性能を把握し、これをもとにスパン表を作成したことで目標を達成した。	県産スギ材の強度性能評価を行いスパン表を作成した。事例を提示しながら県産材の特性をアピールして利用推進をはかることが今後重要である。